



ヤニックのドイツ紹介 ① Eins (アインス)

11月11日は「聖マルティナスの日」



皆さん、こんにちは！Guten Tag！（グーテン ターク）

8月から上越市に着任した、国際交流員のディーツ・ヤニックです。

本号から、私の出身国であるドイツについてご紹介します。

いよいよ冷え込む季節となりました。ドイツでは、この時期をどのように過ごすのでしょうか。



聖マルティナスの後に続く、ケルンの小学校の行列 (© Superbass CC-BY-SA-4.0)

ドイツでは、11月11日の「聖マルティナスの日」を始まりに、子どもたちが楽しみにしているお祭りが続きます。さらに、12月に入ると、クリスマスへの期待が高まっていきます。その中でも、11月生まれの私にとって、聖マルティナスの日は特別な日です。

11月になると、保育園や小学校などでは、Laternen (ラテルネン) というランタンを作ります。お祭りの夕方からは、にぎやかなランタンの行列をつくって街中を練り歩きます。

ラテルネンの灯りには、幼い子どもは電灯を使い、小学3年生以上はろうそくを使います。また、大人はたいまつを持って歩きます。行列にはマーチングバンドも参加し、子どもたちは聖マルティナスやラテルネンの歌を歌います。行列の先頭では、ローマ軍人の姿をして白馬に乗った人が、「マルティナス」というキリスト教の聖人を演じます。マルティナスが一刀で自分のマントを半分に切り裂き、寒さで震える人にそれを渡す姿が私の印象に残っています。



デュッセルドルフ市庁の前の聖マルティナスの行列 (絵：Heinrich Hermanns)



近所でお菓子をもらう子ども (© Superbass CC-BY-SA-4.0)



ヴェックマン (菓子パン)。地域によって名前や味は異なる (© Flamingo CC BY-SA 3.0)

行列の終点の広場の真ん中には大きなたき火があり、温かいジュースを飲んだり、ヴェックマン (人の形をした菓子パン) をみんなで食べたりします。たき火の後には、子どもたちがラテルネンを持って近くの家々を訪れ、歌を歌って聞かせる代わりにお菓子をもらいます。

このお祭りは、もともとドイツの各地にあった風習をまとめて、1800年代にキリスト教の聖マルティナスのお祭りになったと言われていています。私の出身地であるラインラント地域を中心に、1920年代からキリスト教教育のために発展してきましたが、現在では、子どもたちにとって楽しいランタンの行列のお祭りとして親しまれています。

またお会いしましょう！
Auf Wiedersehen！
(アウフ ヴィーダーゼーエン)

東京2020オリンピック競技大会まであと **266日** 東京2020パラリンピック競技大会まであと **298日**

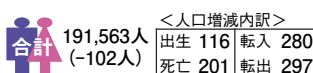
※表示日数は11月1日時点です。

広報対話課から (☎025-526-5111)

●「広報上越11月15日号」は、11月13日(☎)・14日(☎)に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市の人口・世帯数

令和元.10.1現在。()は前月との比較



表紙のことば：国際交流を育む

10月8日、国際交流員のディーツ・ヤニックさん(ドイツ出身)が、国府小学校の児童にドイツの人口や文化などを紹介する授業を行いました。

「ドイツの小学校に給食はない」「授業は午後1時に終わる」など日本との小学校生活の違いについて、児童は熱心に耳を傾けていました。

また、ドイツの「鬼ごっこ」を行い、ディーツさんも児童と一緒に楽しみました。

No.1090

令和元年11月1日発行

観光情報発信中!!
<https://joetsukanikonavi.jp/>

編集 943・8601 新潟県上越市木田1-1-3
上越市総務管理部広報対話課
☎025-526-5111
有線(JHK) ☎5-1-1